

各会派 今任期四年を 振り返って



いばらき自民党
議員会長
衛 梨葉

り組みです。時代の転換期を迎える中で、長期県政によるマンネリ化や、その弊害を一扫しようと、国や民間の経験豊富な新人候補を擁立しました。

「新しい茨城づくり」にチャレンジ

師走の慌ただしい中で行われた県議選では、わが党の候補者に県民の皆様から温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

今任期を振り返りますと、まず、平成二十七年九月に発生した関東・東北豪雨災害への対応が挙げられます。鬼怒川の堤防が決壊し、常総市の三分の一が浸水するなど、甚大な被害が発生しました。

我々は九月定例会本会議の日の開会前に、所属議員約二十人が現地に向き、急ピッチで進む復旧工事等を調査するとともに、議会に戻ると、その足で知事に對し、被災者支援など災害対策を緊急要請しました。素早い対応だったと自負しています。

厳しい戦いの末に、現職のぶ厚い壁を突破できたのは、所属県議が一丸となって挑んだことはもとより、「変わらなければ」との選択が、県民の思いと合致した結果だったと思います。本県では、十一月に「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念とする新たな県総合計画が策定され、大井川県政の下、「新しい茨城づくり」が本格始動します。

我々は今期も、議員提案による政策条例を七本制定するなど、政策立案機能の強化に努めています。来期もさらに磨きを掛け、県政の責任政党として、共に県勢発展に向け、チャレンジしていく決意を新たにしたいところです。

県民の皆様が、変わらぬご支持が原動力です。そうした観点からも、来年が多岐年でありませう、議員一同、心より祈念しております。



自民県政クラブ代表
江田 隆記

県民の目線に立って 茨城づくりに全力

師走を迎え、県民の皆様には何かと忙しい日々をお過ごしのことと拝察します。

今任期を振り返りますと、平成二十九年二月に圏央道の県内区間が暫定二車線で全線開通し、企業立地の促進や観光客増加、茨城港や茨城空港の利便性向上などが図られました。その整備効果を最大限に発揮させるためには、早



県民フォーラム代表
長谷川 修平

「自由、共生、未来への責任」を理念に

師走を迎え、皆様方におかれましては、多忙な日々をお過ごしのこととご推察いたします。先の県議選では、県民フォーラム候補へのご支援、ご協力を頂きましたことに心から感謝申し上げます。

さて、今任期を振り返りますと、関東・東北豪雨をはじめ自然災害が頻発に発生しました。災害から県民の生命と財産を守る対策の強化と復興再生の

期四車線化や新四号国道を含むアクセス道路の整備が不可欠であり、今後も全力で取り組んでまいります。

また、次世代がん治療法「BNCT」が、ついに来年度の治験に向けて動き出しました。

さらに、二十四年ぶりに新知事が誕生しました。来年度からの県立高等学校など五校への医学コース設置は、将来の医師確保につながるものと大いに期待しています。

二〇二五年には団塊の世代が全員七十五歳以上となります。医療と福祉は切り離せない一体的なものであり、介護問題を含め、超高齢社会にしっかりと対応していく必要があります。

自民県政クラブは、今後とも県民の皆様のご生活の第一に、県勢の発展に向けて全力で取り組んでまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

着実な推進を図ってまいりました。

また、人口減少社会、少子高齢化、格差・貧困社会が進展する中、生活者・働く者の立場に立ち、県民が安心して暮らせる共生社会を目指した政策実現に取り組んでまいりました。

そして、本年二月には地域政治団体として「茨城県民フォーラム」を設立し、自由、共生、未来への責任を私たちの理念とし、地域主権を旗じるしに仲間の結集を進めているところです。

昨年大井川新知事が誕生し、活力があり、県民が日本一幸せな県づくりに向けた決意のもと、県総合計画が策定されました。私たちは現場主義を基本に二元代表制の役割を果たしてまいります。

今後とも、県民の皆様との信頼、絆をより一層強め、私たちのめざす共生社会の実現に向け、会派一丸となって取り組んでまいります。



公明党
茨城県議会代表
井手 義弘

「住んでいる人が幸せと感ぜられる いばらきづくりに全力投球

年の瀬を迎え、皆さま方には、ご多忙の日々をお過ごしのことと存じます。この度の県議選では、私ども公明党の候補者全員当選を果たすことができました。県民の皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。

人口減少社会への対応、少子高齢化、地域の活性化など待ったなしの課題に茨城県は直面しています。一方、陸海空の



日本共産党
茨城県議会代表
山中 たい子

いのち・くらし・憲法を まもる政治へ力合わせ

この度の県議選では、あたたかいご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。

日本共産党は、各分野の方々とともに暴走政治を許さない流れを県内で発展させるために力を尽くしました。

県民要望が強い子育て支援や高齢者福祉・医療の充実に取り組みました。児童虐待相談に対応する児童福祉司を増員し、医師確保修学資金の拡充、高

交通網の充実や豊かな自然、首都圏の一角に位置する地の利など、茨城は無限の可能性をもった県です。

「住んでいる人が幸せと感ぜられるいばらきづくりに、私ども公明党の四人の県議は、皆さまの生活現場に飛び込み、皆さまの声を代弁し、明日のいばらきの可能性を大きく開いてまいりました。子どもの医療費無料化の拡充や私立高校授業料の無償化範囲拡大、県南発達障害者支援センターの設置など、この四年間に多くの政策を実現することが出来ました。また、大きな自然災害が連続する中、「防災の党」公明党の旗印の下、県民の命と財産を守る活動を展開してまいりました。

大井川知事とともに、活力ある安心安全のいばらきをめざして、次の四年間、創造と挑戦の議会活動を行ってまいります。来るべき年も、皆さまに実り多き一年であることを祈念いたします。

校卒業（入院）までの医療費無料化、少人数学級の拡大、コミュニティ交通への補助など実現できました。障害児者の福祉や保健所の統廃合、種子法廃止の問題でも共同を広げました。

公共事業は、常陸那珂港建設など大型開発の見直しを指摘。ハツ場ダム、霞ヶ浦導水事業など過大な水源開発を中止し、県水道料金の引き下げを求めました。

東海第二原発は、運転期限の四十年を超え、二十年延長が認可されました。県民世論は再稼働に反対です。三十四市町村議会から再稼働反対や慎重な対応を求める意見書があがっています。「再稼働ストップ」の一点で共同の運動を今後すすめます。

暮らしも景気も悪くする消費税10%は中止させましょう。

九条改憲反対の一点で共同を広げ、住みよい茨城をつくるために一層力を合わせます。